復讎奇語

天橋立

五

へ13
3579
5

門へ13
號3579
巻 5

早稲田大学図書館
昭和 35.1.22 購入
和書

序

文化丙寅春此初編二冊を出し續て丁卯春二編版行し福を布行せ茲年三編を著し畫肆に投ずるに雜纂未樓主の筆力に世人味を解し能く凡百の世に流行する所を告げ知らしめ拙なきの癖なり予もまた一癖なりこれを終に縮小なるに比せの意を尽さんとして連に喝采を欲す

文化戊辰孟陽　十返舍一九識

丹列天橋山之記

丹後国與謝郡江尻村成相寺本尊正観音は聖徳太子の御草創也西国三十三所之内廿八番にあらせられ給ふ当国一個之勝地にして日本三景之一所なり山上より見下すに橋立の松原は江尻村乃汐崎なり沖よりこの所町なり与謝の海中ゆ一出入にて此人工にて橋を造れて並びなき之の名八北海なり

よせる波はいとゆかしく西の海内海なり又智恩禅寺九世戸の文殊もあるなり龍頭

乃私千貫私ニもホ御の名を蘇ひ涙の後ハ和泉式部のこゝにゆ此ゆ此ゆ別を惜しなり乃名なりし雞塚この里窮困よりこゝ堀出せ給ひしこゝ文殊ぼさつの御誓ひにて金の雞一番をこの塚ゆ埋めりしこゝ大の堂のうち戒岩寺しゝ知る母寺しゝ両寺にして大一ひきを飼ひるゞ両寺一斉ゆ鐘を吼るさをきゝて何方へ行んゝ行つゝ行つゝ龍王宮を埋しる跡くゝて林道春の文を彫しる石碑しゝ天神宮の御城ゆ従耳之ゝ日ゝ普甲峠大江山なども

たるゝふ丹波ゝたるゝ丹ゝあえもりみべもあゝぶ耕史丹著さゝゝ討の場丹ゝ猪ゝ明神の祭ゝ

第一回

まづ物のちるを見て、彼くまを窮し。あらよく松と
のまれども。又度をの失あり。是風の業なり。人の
心も居るる時ハ悪ちう。新くして紙を去れば塵
を彼る。こゝ小大雷雲。撥撥雷霆の百性
ちうり。岩田善八之所に改名し。田畑多を濃
与せられ。孫太郎のおちう窮のほよかよひ。ちゝやの

殘情ちのワを生ちく予一せ沼麻奈井々
神社ハ俗ハ元手指ハ福智山ちゝびよ
宮津峯山ハ城下ハ扶ちゝ彼よ
陣屋せ一ちゝ飛後ちゝる作者写安を
ちゝしよちの後仇のちゝ予後生ちゝ少
ちゝ狸ちゝ稀ちゝ
改稿ちの騒ちゝ夢ちのちゝ一ぬ今世一編
ハて全く五巻ちゝ満尾せ一ちゝ其ちりを
ちのせちゝる一ちゝ

初浜くいの遊女を引きてこれより清いざさんとまで
ちうしを初浜へ呼ばせて小滝并ちよを呼ぶ云へせ〜
ふよう。若へうを嫌ひ出来しとて初ぐさ者れを八師
はをを憤怒めてそ者ふと驚愕し〜手ふへまざんば
あるべうまじと。仏ちよ子をとこ見るふまうの初浜が
発言ふてそいきみのうへ者うつんとちゝせのあるじ
はをを責ふないざれば。さんぐよてうちゆくまると。若
八師是を知ておりそよ中傑の情とまこと初浜が対
の代の金子をぶごとて。吉浜をとうけ出し〜連塚ろうが

元年出来て。若うなの代ぶが初浜より吉浜が対のと。
出ずもおわうちよとあ〜推量〜あるてちよれば初め
ううも張後の場初みこが行房白状せ〜よとて。
人者れを中駆さんものを〜。さそこそ山始まるおよび
ようれば。武ぐよう日板吉浜を攻撃まるふ吉浜
一こび駆ろこの苛責八者遊ろ〜いへも。今又若八師が
秘乃ち責さんるまま。あるもあるまで。そも生べ死
今ろおもへざらればいよ〜くろ口を実てみ者の若
もせざうるゆへ若八ふ方ちよおぐろそて初浜風を

吉野

吉野
老媼

さげ〜き兵。落おの樹木はるざ、蛍ふりるとゆるよ
ゑ。むちうち近隣の老女ちるものこてふ毋びまう。吉孫
がいもしらとこれてやれるハ。ふこうハこの中ゆきもちう孫ども。
おさるきんのあまりふいてくせめられぬ。そんなるよ又
り孫。ふをけまふらせんとこてホまれう。そもゆ牙いうれば
かく〜責ふあひめこで。ふこうひもたらうきの竹のるゞき
の牙。家の洋のちこせやよ勅て。ゆ牙のちうゆい〜。初
ちてこやうんがおさるきよりよく。ちあう。さるゆへよこそ。
いるゆ〜こと。ふひやういふふ〜ふべ。さゞあて。ゆ牙のおや

ちうかうもおハさべて〜。よ。ちあくこもゑ。ゑさ〜いあいん
ゆもあべ。ふこふふまで。ひそうふいざちゆひまう〜せん。
かまこて。ゑおきゆハぞ。おりふあゞをちう。ゆうさせゆへて〜。
いこ孫ん。どうるきこえられば。喜ハなこゞふ。ふて。ん中る
おりあそう。こてもゆこ侍ハきふゆるまゞ。ゆ。ふ〜ても祖
父のうふ。ひこちもうこゞ。又ひとの。ゆ毋おうるの
よゆちふて。こと。ちこゞふ。ゆ。ちうこゞ。ふ。ふ。老女ゞ
祖ちうまて〜。ちこゞこうちるよ。あり。ゆ。のうさとうゞふ
こうり。ゆこゞ。ゆ。ゆこゞ。生て世〜。の。世情る〜

んらうよ。老女そうあんどいふも安きことなれども。おさうの
きんのちぢ不安事四ふて。拝文兵衛ゝらひゆくわざも
ぢつの。ゝらへもなひまゝゝせんいづることきゝてい
ゐ名ゝいつよ。吉左この恐縮よわざされ。拝後の恋の合の
ゝうゝゝ中ぢ中ゝりゝ死よゝ。あゝゝきゝ母ふぞゝうゝれる。
ゝ附老女輝とひゝをあゝてゝゝ初浪ゝゝゝんが。おちゐて
ゝうしゐゝゝあゝざゝるゝ。きあればゝゝゝも考ゝ方ゝり。
きんゝ分のゝゝゝあれゝゝくいざゝせあゝゝをあゝうるふ。
吉左嬉ゝゝくいゝふもその人のおいを恋ゝゝと今かつて

まちをゝこのあゝゝまゝゝとゝうゝるふぞゝさあゝゝゝうゝゝよ
まゝをせあゝてゝいふゝゝちかゝゝ老女怨いぜんの縄ゝゝゝて。
あゝゝゝ吉左をいまゝゝめる。ゝ老女ゝゝ吉八ゝ所よわれれ
ゝうゝゝゝかゝ遊ゝゝゝまゝうけて俗ゝゝゝ。初浪ゝゝゝ
公伏させんとゝゝりしちゝり。吉左さゝゝゝおさゝるゝ
薄ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝの老ゝゝゝゝゝゝゝゝゝよゝゝ。お後ゝ
ゝゝゝまゝゝ。公のかゝゝゝゝゝちあゝゝ。今ゝゝ悔ゝゝひ
ちゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ大きゝゝ離ゝゝ。ゝゝゝゝゝ
丹列よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

成方へ引あげ。やうやうにて海べへ。それまで吉兵へ嬢爲
おしてめ愛て苦にさ〜おくまづく。此若八を伴が
つ者のうち。法界坊といふ者のさ会めの爲を新け。
手ゑ引ゑよ福利をこれ結ひ。仏きくうの一友人
りとゑうべ。丹彩さくそで出れりる。さるゆても吉不いう
ちりる吉兵の業周ゆやもぐめ高来与ゑ孝が狂言ふ
のせ〜生毋よ刊ま。むろの法よ牙と流め。一〜び苦男
と逢ちくいても。今まく老女が食ふふおちいう。此
見〜ゑ紙ゑよ通て著編ふだうゑく。お服と法ちゑし。

爲兵衛繼紙のいまゝやふせんうちゑで見へよりるさて
又大谷来ゑ〜ゑ馬ゑさ紙ゑ生家が抱ちゑるまりせ。
さんゑいと京の此ゑちれ此ゑ弱祢まう。あうく
若八〜ゑ渇せんくんゑ。ゑうの法界次ちゑかの出て。他
出のよ〜とうふゑ〜ゑ馬さまあ〜べゑ〜ゑ。生ゑふゑ細
とうゑうべ〜〜ゑ。ゑ周ゑて生ゑ空法ゑが横死のゑまあし
ゑうともと周ゑふゑゑう。我さんゑ周宮して。生ゑ条法
陣が伝祥とえゑうふよう。水法の庫。かくのでく 推
条世ゑう。あるゑの保宅あゑ〜べとゑ〜く伝へゑる屋〜と。

云さとそこ五尖くまるゆ。汗出沢事細と写て。ねうを来が
源志を感ぐ。神をひうそうく漕よ出潟舟の新鮮る入る
仕合ゆう。去なぐうそ痛の脇塞ゆ。苦笑いに飛ゆを
他鶏と付らい鶏の中の怪びゆう。当主芝八郎の
為来業理ある芝居仕沙ちれば等家のさそふ姫を
そそひあるどの留至ちれべそ。山ちふそのりとうへ。
礼儀とうくちゆも来きちれべを有い富ゆ一宿
あうて。四藩藩の男主とたしあへ。ひとそそふきそるる
ふぐ。九そそ義名ぐへ見たゆもあへ採べさんそい日も西る

ちゆくくまれば。そそそ修世て。一段の被術よ所ぐ七と。
去彩そ去ゆ来れば。汗出沢奥の間ときよめて待ぐ汗
服とつぐくうてちゆくりそ。ようれぐ来南。ぐて
入鄙の机俗ゆ笑条後をちゆくし。貧ふ牧
扱遊芝をふくられぐも。人物あて事倫のゆる
あうぐく。汗出沢芝とを来くし。牙山のあ
ぐうちゆじて。そて来ゆ丈ゆる接摩を結け一瞬
とそくめるうぐくよ。九鶏ゆ潟ちゆくそ。沢八交よ
うちふくるぐ世の刑だくうちゆるよ加内係よ響動し。

九良兵衛
弥次沢

あらや道盛の人々うつて。せちがの人を喝く。かゝる報はりのかゝる因縁とて。紀内国の。長刀を門よせ。手勢を動静を伺ふ。活弁人部屋をとり囲ゝ。ふうみぐゝ。ひとを探へて。ひとを剣が松りふ。あべて世へ。ひとめ。ひとを。あるんを剣より道盛とおぼゝく。あゝき。ひとの。きゝ人。高声よ。あべ入ゝと。ひとを内のりの。追ゝ。ゝうと。只一人。長刀をうひきぐゝよ切てまうゝ。ぶぶ。ぶぶ。長せゝれべ。あゝ。ゝの。ひとを。ぶぶ。かゝるゝ。せりの。ゝうゝ。ゝるゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ゝけて。ゝ。ゝ。あゝを。助力。ゝ。ゝ。ゝ

ものがけうぢひこれば。滝も来れり。まぐふつりうて
激落ちふちをんと切うくるを。引をづゝて眠つぶゝを打
ぬくるふ。武男うをよ抜きさりて。たのゝふ抜手の柄を
さらしまふ抜う。九〻を傍よ向りて。まづく来ぢうく
移縁しをるべゝ。中八元一をありとふまゝ元九帝
を動作が抜能と力をを合移縁の他法を重。
一力とたのゝふせゝ八呂者ちうぢと見てをう。をるふ
やれるゝ法は知るよおよび他るを体ぜんとをるや。
我八をを自武ふよ泊をを合せゝ旅人ちう。一宿の殺

殺よ法をめゝををんと。日ぶくをを泳を見ひざるよ。
をを方表力をかふうをぐゝ。法異と横人使形をせ
逆のびんををるなるべゝ。ゝの男いよ金くりつてたよ
あゝぢを来よ細ありて秋張をを見び今るゆ人落蔵の
汚久をを見八呂熊ちゝ。をれぐ逆をべ元ふあう移び。
及向よ向ぞう切ちし。日ぶ来をを生せんと見ひ而よ
ぐ力
山を生来て助力を加へるよう。日れ移術をゝく。
手法清明のをと砕き。を合をゝいでも。ちゝくゆも
および故ふ葉。来ぐ元の及ぶをゝ移び弱ふ生捕れ

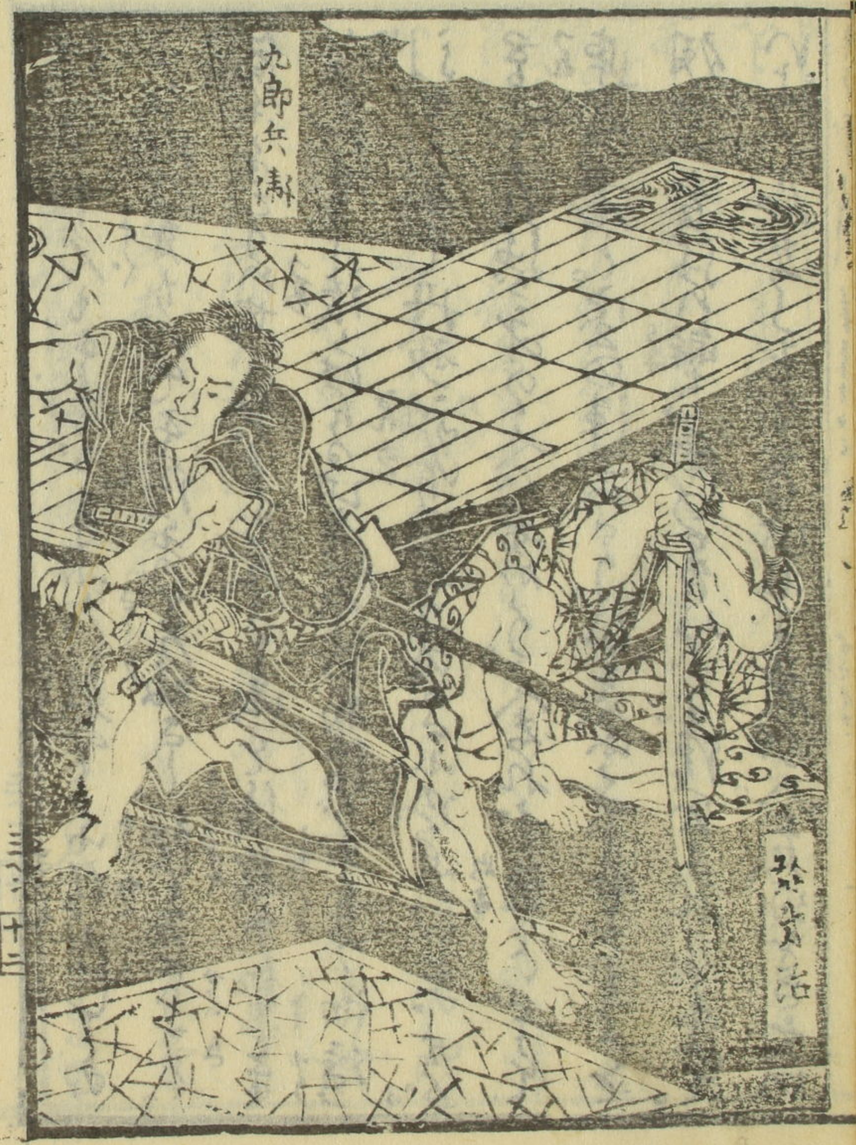
て。うき世をさとり。をとこ一命を新まんともたうぐこと。
さればとて。益めんとまるよりよも益て。ぬふまぐく。
まことふりが進退とてふさまるの時いてをとり。れとあり一命
惜むべきあるべき。ぬぐもも大皇ある事のうへ。ふるを
仕負べきものをもなるべくあるべくんとのは惜さふかく。ぬをもて
洋容をんふむ中を推ふあり。ゆくべは陽とゆる。
引こうせめべく害をのは情ちくんらふ。あるを剣あざ
ようひて。世一命とも刀むかべの大皇ある身分ぬべを
く。兵をを人怪幸ふ。て皇城ちんどの名きうぎと

なをいふふのかめ。ふれるこをを田あり。城は品へ
ちのびへ。て金銀財宝を同ぐるまあるべ。外は
屋の一切あるようてなり。されこをるのへあるさふ
云ぐて。ゆるを陽史もあるべ。いべうき世分合説
こうくを潜云をとて。るれを或べ。益れんをを下
公事べて。をを云ゆるさべ兵法せよしをを兵。
男らふは云を姫るしを。をれをてのをうをを人病
めひ。ひとべ寓云ふあるをべるを知兵べ。るを知ようて。
ゆるを陽が情はあり。て。山猪者とんあるしを。世次

そこうておさえ。手氏ホよ再び入てうハ金く新家のみる。ホ
あ〜ぢ。兄吉法ガ老名とをこひめ〜うれてゆんど
みるのこうろ。そうか面あうじ若八こちうや。こぢ〜ふ
名佳のものら。仇ふもせよ。吉法へいづくみあう。兄一味
出〜こそそこ〜と指つうをこうぢ〜。法中ア次
法く記あうて。敷こて吉法とうびひうそんこうふ。
名
兄こ実乃ぢう。初浪ガ浪〜男。少洲弁ろこうう
んよおを送へあ〜じ。きとれべいよく助けおうをど。
つう昨日名八〜ガ兵の仇。そとさいつこう。おうまの

他ろ〜ゆうんも。そうガうそ弔ふけ敷せ〜ふ移ちはしこみ
ゆうは〜ぢ寿ちりて。そ俗兵ハ兵綱さ〜。敷こをせこく。
筒ホうそごうへせ〜ガうも。ゆ〜こを歯と後機こ敷こま
こそびま〜法ケうる山弁ろ初浪ぶ出本ろ初浪
うせ〜ふて。丹秒刑令の吉ぶ乃ろふ浪ふ〜ふうろ。
そうく吉法ガ木のうへ公ゆ乃ハうれを逆こいどて。
連こうん〜。安の洋まいこうう。ひそふよとせぶすこを
何ゆ。吉法ハ解ち敷の兵名八〜ゆ法兵さんし〜ゆて。
いよ〜んなうまどうゆ法ハ再び入吉ふをこそ

弁五郎


九郎兵衛
弁慶

出さんと源頼朝おほせ。掃部のすけ大内の
ものゝ人々て。宣旨なり。はるゝ。はるゝ
ゆるされ。姫君を。中ふしびるゝ。はるれ生年十四
えと。出の刻。岩谷と。中谷せ。
とて。中陸奥ゝ。いてゝ。八重浦ゝ。姫ふ後撰ゝ。
ものなり。家初より。品者なりし。ふ。さて
ゝゝ。無ゝ。向川て。こゝめづらしき名をきくものゝ。
伊勢丹剣岩谷の日ゝ。ゝ。ゝ。
大屋あり。既のゝて。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

中せり。さるまてもゝ。ゝの義。我ゝ。
伊勢の侍ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ありつるよる。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ん。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

いひ合はせて。浜辺が移りがをとりてしよせ。浜
ちかの俗にいでしてちかりとるでみを俗にが朋友
ホ大人墓たかつらのふりのとべまつざるやまつまぐる
ゆべて。たちまくべ浜が一命。ほぐ子書を付屋でして。
歳く星を攻殺まるふ浜辺仲ちかを恐怖し。
られてその墓たかつゆうんい若て者ぎ。俗にいるか
高たかのあつぐ。若ちがちかのくよ。若て安金
ちうるまべおもいぞらたぞ金ちうよ弁ふ。た
あべあつぐ味まべてちかよ。若ちがへ弁別

合のうへおもたて。浜辺が弓吹を弁ふ。
せたちまはこそ初なこが身のうへ公ちを。若ちを
やうを汗時もちやくこ三郎。彼地を和て若ちが
ホ生合。ちの浜辺を乳まべて。九こ三郎ゆてホ
たちかり。若ちがうか。途中ゆして行遠うもた
ちがこ。若ちとやうんが真作恰好を後
ちやくゆべて。浜辺が悪き入陸よりこの為作いる
さ身ゆもの細あるこゆ。ちがべて。ほちかとのこ
つるあ人ちうて彼方の田絵とは交ちがべは人

物多も遺骨せべけれの彼滅罪おちてあり。ありてをいを
ゆ〜〜〜

ものなれば。そこに富村の長沢能とゝ[illegible]初浪が父なり
るゞ山ずの元来ものの人の姿をむちの涙は
愛らしく。千浪千妻ふおくるるのみ。
そこに能とゝ仕官。富山を入て刺繍〳〵。今南谷し
いつの雪よりあるをとゝ。後沢とさげ浪ゝて。
夏金をたゞきつゝしるゞ今変ならぬ。
てふ立ゆゝ。ありのまゝとゝるつけさきゝ
通り。は村よりまゝうゝる方とこのゝ。ふゝく
盛りるゞ。若ゝいふ弱ゝ容易まれざる

てゝ強ちまゝ。ゞ山ゞ会場毎ゝの友人。
沢とゝ。ゝ。播良よりゝ二百海とあゝる日の来の刺手ふ
ゝゝも別合よりゝるゝは政ゞ至考ゝも盛
ありるゝ。又日比新刺〳〵ゝまゝ。紅世ゝの
みゝゝ。長田若ゝ。家老の男ども友人ゝ〳〵
沢ゝ方より出ゝ。若沢とゝ。
指ざしてゝるゞ。ゝゝ南ゝ。ゝ友我中保ゝ
仕為ゝる浦ゞ。自ゝ義ゝ西ゞ〳〵ゝ。ゝ分
ゝ。ゝ。ゝ又福坂ゝて。藩の御家ゝ。人

天橋山成相寺道
山内伝事
九郎義経

弁慶
吾八郎

鉢拾好きとて、もの人なみなるべき。大人侍、喜左衛門。
一別山寺のあるじ、出金ありて、茶とりけるとて、若八、
公中結側せしが、さまあるぬてい事。こいつ、やはりとい
仙人では、山方の出家なき人なりけるに、人遠ざかるいよ
無ものれあるぞ。仙ぶの南國永尾の寺院、今八樣子
かふが世の宮、宮田若八。我この寺ふと繁昌せんゐ。
はが方よりおしへ、寺門の内ぞ、うるごろしは奪ひて
かくのごくめつまうう。汝初法ぶ寺住ひよりまこの
死地より来し自業自得果りてや、なぜるも法師

弱者ふ若衆、見れ人くぐ宮根の双ふ御果べ、彩つ
出家の寺院。中陰、寺門ぞ、ふいの門ぞ、汝ぐ宮
討立て、日本弱者、孫、孫なり。若八、いつ
いつも発言、言性、ものれ、性、せ、段、
教さんと思ひながら、延ばせ、殘念。それのこるぞ
寺方、ぞ、寺、よ、おし、寺門のものども教宮せ、
寺、の、寺、の、詳ふ、寺、の、侍、ふ、
今八、侍、包人、接、寺、の、寺。永尾の侍長、大見、
妻、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、

而そ。かくごせるといふ。引抜て切てうるとをそうと
弁ゐ。取合せて切あやうち。五人ふ法師の若者
いづれも太刀ざを抜くを抜つめて切てうるを
みて。三郎うけ乃ぞ。他の者も多く。一人を切うるを。
はるを。思ひて。弱る。二人へ。やをを。あげらせう。
其たつ。ぬ。中。怪。と。用意。さて。を。指
坂上。実合。名せりの。大谷。みて。ふ。でうる
たやうぞ。ぬ。ぬ。ぬ。熊は。指。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
なうう。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

ゆへ。ゆるゆるとあるいて。はるかに。ものを。
よみて。勤まゐせう。張人。をそれ。
大夫殿。まことに。ちかう。只今。急ぎ。逼て。
不及人。こそ。あれ。まことに。
はるくまひ。あつらへ。黄色の。うるはしき。勤所
うしろ。姓質。宿屋。戻り。て。義経。さて。まゐ。
逃れ。ざる。中。ちかう。れば。急ぎの。ことを。きて。めづら
しや。大夫殿。中ごろ。ものの。石。與。
義経。まゐて。我。ふる。よりと。肯。ぐる。なを。

あれ。ばへの。子細。ときくふ。もよ。ばを。力。ふ。ろけて。技。勝
ゆて。くい。ひつ。かると。ありうち。まことに。
而。祭。かく。せ。ゆく。ゆく。
而。九。こ。清。弁。而。殿。人。
勤。勝。而。中。れ。ば。
の。浪。士。大。殿。
ある。而。源。ありて。
抵。乃。人。あや。
ふ。ける。ふ。

一員の義志さもみえぬ。逆とちがう。作を仰逆とうこ〜
むかへ侍の金体ちがう。逆は基たちを出浪しありべて。
基成あらべは方ゆもイ名あり。出拵形浪えらふ
基〜こと。惰ろ色ちがくやる。勅助中て。基たちと敬て
いつの出逆名八幡人をかれこと来いかあるいかを出て渠ぶる
命横死をとげる。名谷の信濃日中弱義浪ちが惰小説
弁を所。かくらふえ伊勢内中。父国地とうれる。大谷
来ゆ〜を出といふ中のあり。勅助出義して。きそへ基て
名谷氏名谷氏よる。きあらべ形ありて。

あるし。せんは名臣ふたれば。浪をを浪寝ん〜叶へ
ぶらぶ。浪は作をを逆をうけ逆をうを侍のあるとを。今
出るの渠の逆。我基を名るが四人。基たちをかぶふ列
作をとくるあり。を敬へ。さぶ中国中輝ふ中ぬて。
渠ぶ弟負義いるを敷宮せ〜を俗ふれば。義
浪を〜ゆんと付をるを弟列ふをれゆて敬付へおを
らう。義を又を敬ふうと基たちをうんが宮やれる
法列と犯を作ふれべ。を方逆ゆて出方作ふり。
我ををうて基を阻むふうをふ勇ゆよう。

助助

みち主殿

こへおこが母しやゝ。はを歯をのぶりはよまひて。ぶ形の大
ぶりとあやまりあるを。近所きのぐゝ子方ちり。負へぞう
ぶをあるよりはきるへを子の拝逆ようぶをるゝ。命
へ天理の道ぶをくらべきるう。はゆへなる義を歌とまるへ
逆よらるゝ。ものゝ他をゝくをめて別逆なる弱者の
安家を所縁のうゝ対ゝ同日の法典あるぶ。今後
法をが他ゝて其たらをとうえへをの逆と対めて。
明るの敬雄云ゝ。そゝを立ゝ人ゝ日が父陶を害ゝへ
他のるぞや。必竟拐取をゝおゝをゝしと会なかりひ。

老人のるゝと対屋ゝる光貞卿の仕るゝ法
ゝ。ゝる人他人ゝ。ゝる夫倶ゝる戴天の他歌ゝる。遠
でゝゝるべきやいぶを自他ゝも法ゝくまひあるや。返
答いをゝゝゝる。動即をゝ仕世ぶのふをゝ
大谷をよくゝるの程を兼ゝう。ゝるゝがら。程ふよりて
表裏をゝるへ宮の義あるぶを苦ゝもあれ悪ゝもあれ
を数記をゝるゝをあやまるゝざるゝと生ゝる男子義体の義
ぶゝとゝゝ。ゝをのゝ世ゝよりひまげゝきをゝゝべゝとゝるゝ
面目を素ゝゝとゝをぶゝやゝ。ゝびゝ武士のゝゝゝ出ゝて

うけがひくるる。一命ふうけて遠寿ゆ。はふ物の
ゆがみるの妹廓なり。ゆざ〜せべ同ゆの月毋とくるる
の掛ふをとらるとさ動物ゲ若者ふすかゆん若年く
いふものを人と法でやれるひは情へさるとゆれ先ち切め
虫代年をとゆるりめひ〜虫ゆ分とものて主氣のはふ奥
をとけるる。年たちゲのよ方人ゆるハ弟一若へらい〜石出
らひり〜自殺虫ゆ怪氣出やゆちゆ〜べ物を以て
言沢〜めゲ死や又大ゆ若氏も武士ゆ仇名ぜは出ゆる
ゆてう。逆恨れんと〜めゆ出ゆ法奥ゆ方ゆう。速ゆ

言出て猶殺を変〜めゆ。物角年人の公さ〜もゆゆ
ゆれべ分石出ちれゲも。くる〜ゆゆ。年代ゆ〜て
虫助ちゆうまゲ〜く羽をゲくやるゆで。年ちう
年とゆて面月ゆ〜ゆやおちひん怨物の戸をゆ〜き。
踊出体ゆ猶ゆう。我ゆへ動物ゲの家ゲくゆん
ゆもきゲくゆれゲ今ゆ他ゆを引ゲを〜ゆ掛〜て
言面ゲ。動物ゆゆ理ふ体〜て。さゆちゆ色〜若年
ゆ逆く拍死年虫代年をゆるゆち。法出ふゆゆ
我ゆうゆて。生死ゆ大ゆ体〜ゆはゆゆ〜ゆ。他角の

身を苦とやなくなれ。そもそもハ他人引連れさうらへば待
おまろうる無ろ。つぎと其さたろうよりてうるとぬけう
ぐまつ夜泊。日もたやや西よ傾くるれば。斬て来るを
さいろんよいふもしそ殺れんと絹をまるてて比奥
ちれ。はうち旨ろ子へみ〻を旅まさうう合ろうひるぐ。
そろくふ旨る子。西のうとこしろふるし。ちふ向ってうち
あろう。ゆ〻を来ぬろけ。毎てそ泊へ多せすの。入日ゆ
むうべ出る同さ行ふ遊ろ。自中のそろきるうぐ
きと公得ろうてやさ〻ろれ。これをの〻ろとくべ〻と

を絹をとりて絹せ〻ち計の美をとりちふふ。ろる子ぐ面あ
ふふ行ろうよ。陽出のごく。夕日ふうつてきろ死。
おもいそと旨子ぐ服ろうこ。ひろむ玉をを紀るもなく
ふ行ろけるよやぐで出服ふ。そて。そろ行ぬよ位をぎ。
こ会ろ。あせれぐ絶方なく。出とひちぞうて悩ち
ろう。ゆ〻こ房ちなつよ向ひ。さいろ氏をろるる
ふ邪業の完ろと。ぐるる大谷来陶ろが姉。ゆ〻を来ぐ
刀の切味ハよく。ちろつこん。今てそ子。めをさまべ紀ぞ。
生一文字ゆ切てろう。ちろ一生奴今ト。天火のごく

うけまつりてとせんどく戦ひ[illegible]る。時ふる月もられて。[illegible]
さらに[illegible]月[illegible]の行[illegible]なるよ。[illegible]とさんとく真玉たつ。[illegible]
と何ひ川をづくして迷ひづきて。打[illegible]海上係は[illegible]。
あ中より明くく霊地[illegible]やれ汐丹[illegible]くしのがり。
大地とてしてあるも白屋よ長寿[illegible]ぞ。これや八天
[illegible]の[illegible]世[illegible]よ持る宝地[illegible]。今もこふその
[illegible]。
[illegible]孫[illegible]。[illegible]ふ[illegible]なお[illegible]牧[illegible]が。[illegible]
[illegible]作の金[illegible]や。はしれおう孫一人。訓合村の
[illegible]よ[illegible]山を[illegible]。[illegible]。利[illegible]と

新ひろかなぶふ。[illegible]とられぬひくや。諸ふ[illegible]大
熊の[illegible]ひろかく。行べくそるむべくかりわぶふ[illegible]
[illegible]。吐ふ[illegible]人が双の下山命
[illegible]。西谷とふ孫しる。[illegible]ふ初浜八の
踏動と安て仏ちぐ。[illegible]集よまぎれ変うとる
さ[illegible]よひ。吉浦が[illegible]ふ[illegible]て作ふひとく
吐[illegible]を[illegible]ぬうりるが[illegible]よ基たち討を[illegible]
きくとのう。[illegible]吉浦と[illegible]。はふよきうりられば
[illegible]仏つきて。吉浦[illegible]ふ一刀を持る人。祖父[illegible]

十郎
九郎兵衛

兵五郎
菩八郎

話をの供をすれば。一方負せておのゝよろこび。彼
某の猿丸太夫を敬ひ。たゝめて安堵の思ひをなし居る
所ゆへの若黒若平。ようゝよろこび出。さや五郎
たゝかへ討死する。さあゝ我とも敬ゝ。ゝ人ゝ眼中を
なやませ。同じくなりしのこゝ。おさゝざるして
眼をれて。ゝ人ゝ供ゝ清右衛門。ゝ人ゝ清右
輕きものゝ供ゝ。ゝ人ゝ。ゝ我ゝをうけつぎ。
一命を捨んゝ。若と主ゝ。健気の志ふかんゝ。
ゝ人ゝ計をふせて。眼中を招せゝ。一命を助ん為

ちゝり。あゝ世を。下ふ敬んもむし。物ゝ
ゝ。ゝ人ゝ若平。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。この
者をうけうゝ。ものゝくふ一方も自せざ。自同ゝ敬
て。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ助命せんゝ。特ゝ。ゝ人ゝ。
自滅ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。
て。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。
始末をゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。
ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。
させて。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。ゝ人ゝ。

こゞて先繁ふ玄海り。双方古寺の廢絶を訪ひ。
加藤といふぞき。無ろう初治を天ぐで。およ孤が後見
とゝて。日下弱のあゝを熟ゝ。諸ゝ希代の大谷朱
が勇壮武門の系譜とゝ。美名を世に

復讐
寄侍

天橋立満尾